

体重別小児投与量早見表

クラリスロマイシンDS小児用10%「トーフ」

体重 (kg)	一般感染症	
	有効成分として	DSとして
	1日量(mg(力価)) (10~15mg(力価)/kg)	1日量(g(力価)) [2~3回に分割]
4	40~60	0.4~0.6
6	60~90	0.6~0.9
8	80~120	0.8~1.2
10	100~150	1.0~1.5
12	120~180	1.2~1.8
14	140~210	1.4~2.1
16	160~240	1.6~2.4
18	180~270	1.8~2.7
20	200~300	2.0~3.0
22	220~330	2.2~3.3
24	240~360	2.4~3.6
26	260~390	2.6~3.9
28	280~400*	2.8~4.0*
30	300~400*	3.0~4.0*
32	320~400*	3.2~4.0*
34	340~400*	3.4~4.0*
36	360~400*	3.6~4.0*
38	380~400*	3.8~4.0*
40	400*	4.0*

体重 (kg)	MAC症	
	有効成分として	DSとして
	1日量(mg(力価)) (15mg(力価)/kg)	1日量(g(力価)) [2回に分割]
4	60	0.6
6	90	0.9
8	120	1.2
10	150	1.5
12	180	1.8
14	210	2.1
16	240	2.4
18	270	2.7
20	300	3.0
22	330	3.3
24	360	3.6
26	390	3.9
28~	400*	4.0*

*: 成人の通常用量[クラリスロマイシンとして1日400mg(力価)]を超えるため、1日量の上限を400mg(力価)とした投与量。

【用法・用量】

1. 一般感染症

用時懸濁し、通常、小児にはクラリスロマイシンとして1日体重1kgあたり10~15mg(力価)を2~3回に分けて経口投与する。レジオネラ肺炎に対しては、1日体重1kgあたり15mg(力価)を2~3回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. 後天性免疫不全症候群(エイズ)に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症

用時懸濁し、通常、小児にはクラリスロマイシンとして1日体重1kgあたり15mg(力価)を2回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

- 一般感染症において、小児の1日投与量は成人の標準用量(1日400mg)を上限とすること。
- 免疫不全など合併症を有さない軽症ないし中等症のレジオネラ肺炎に対し、1日400mg分2投与することにより、通常2~5日で症状は改善に向う。症状が軽快しても投与は2~3週間継続することが望ましい。また、レジオネラ肺炎は再発の頻度が高い感染症であるため、特に免疫低下の状態にある患者などでは、治療終了後、更に2~3週間投与を継続し症状を観察する必要がある。なお、投与期間中に症状が悪化した場合には、速やかにレジオネラに有効な注射剤(キノロン系薬剤など)への変更が必要である。

【使用上の注意】小児等への投与

低出生体重児及び新生児に対する安全性は確立していない。(使用経験がない)

●その他の詳細につきましては製品添付文書をご参照ください●



東和薬品株式会社

平成27年4月作成